

令和6年度 島根大学学位授与式（松江） 式辞

本日、島根県知事 丸山達也様を始め、県内定着奨学金としてご寄付頂きました企業の代表者や各学部の後援会会長様、同窓会会長様をご来賓に迎え、学部卒業生1004名ならびに大学院修了生250名の皆様に学位を授与し、晴れの門出をお祝いできますことは、島根大学として大きな慶びとするところです。卒業生、修了生の皆様、おめでとうございます。

また、この日まで皆さんの成長を大きな期待を持って、支え見守って来られましたご家族や関係者の皆さまへ、本学教職員、在学生を代表して心よりお祝い申し上げます。

皆さんは、それぞれの夢や目的の実現を目指し、希望と期待を持って島根大学に入学されました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、皆さんの学生生活は想定されていたものと異なるものとなってしまいました。感染予防の観点から授業は自宅で受講する遠隔授業となり、フィールド実習や課外活動等も制限されました。また、友人や教職員等との対面でのコミュニケーションも抑制されるなど、精神的にも苦しかったかと思えます。しかし皆さんは、粘り強く努力を積み重ねることによって、それらの困難や課題を乗り越えてこられました。ようやく令和5年5月に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行し、その後は徐々に学内外の活動、生活が本来の姿に戻りました。講義・実習や正課外の活動、凧風祭などのイベントも対面で行うことができるようになり、皆さんも遅ればせながら学生生活を楽しまれたのではないのでしょうか。コロナ禍、そしてポストコロナ禍を経験された過程で、身近なことから世界レベルまで、自分と人との関係、社会との関係、自然との関係など多くのことを考えられたと思えます。厳しい生活及び学習環境を乗り越え、本日、晴れて学位を取得されます皆さんを誇りに思い、また深く敬意を表します。島根大学で多くの困難を乗り越えてこられた経験は、これから厳しい社会へ飛び立たれる皆さんの将来へのレジリエンス、困難をしなやかに乗り越え回復する力に繋がるものと思えます。

またこの度のコロナ禍においては、本学の同窓生や保護者、現職や退職された教職員はもとより、地域の方々など、本当に多くの皆様方から貴重なご支援を賜りました。皆さんには、様々にご支援頂きました方々への感謝の気持ちを忘れず、それをこれからの地域・社会への貢献につないでいってほしいと思えます。

今世界では、感染症の感染拡大、世界各地での地政学的事案、環境・エネルギー問題や食糧問題など、また国内では人口減少や少子高齢化など、課題が山積しています。**Volatility**、**Uncertainty**、**Complexity**、**Ambiguity**の頭文字をとった「VUCAの時代」（予測不可能な時代）や、人類の経済活動や核実験が、地球の歴史上小惑星の衝突などに匹敵するような地

質的な変化を地球に刻み込んでいることを表わす「人新世」ということばが示すように、人類を含めた生命の場としての地球の持続可能性が脅かされています。文明は一度できたものを土台に新しいものを積み上げるサイクルを繰り返します。そうして必然的に加速度を増した文明が、地球や人間の限界を超えるレベルにすでに達しつつあることが、現在の核戦争の危機や地球温暖化、また AI が人間を超えるシンギュラリティの到来予測などから示唆されています。それらの課題解決を目指して SDGs：持続可能な開発目標が提唱され、また DX や GX などの社会変革が始まっています。そして、我が国では令和 7 年度までの 5 年間にわたる第 6 期科学技術・イノベーション基本計画において「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(Well-being)を実現できる社会」の構築が明記されています。

ここで重要なことは、例えば行き過ぎた市場原理主義が貧富の格差を拡大させ、グローバル化の進展がコロナウイルスの世界中への拡散を促したように、SDGs の 17 のゴールは互いに関連しているため、どれかを達成するために他のゴールにマイナスの効果を与えないように十分に配慮することです。これから取り組む「開発」や「イノベーション」が、地球や人を含む生き物の限界をきちんと認識して、本当の意味での持続可能性と Well-being の実現につながるようにバランスを取りながら、DX や GX などの社会変革を活用して進める、そこにこそ人類の英知を総動員する必要がある、ということです。

皆さんが、島根大学で学ばれた専門領域の知識や技術をそれぞれの仕事に活かすことはもちろん社会から大きく期待されています。一方で、その専門的な力を、総合的、俯瞰的な観点から社会の中で正しく位置付けて発揮するために、総合大学ならではの全学共通科目で学ばれた幅広い教養を土台に、さらに社会の中で広い意味で生涯学び続け、真に持続可能な社会と Well-being の実現へ貢献されますよう、心からお祈りしています。

このような社会、世界の課題解決に向けた取り組みの基礎となる考え方を提唱・実践された、山陰ゆかりの二人の偉大な学者をご紹介します。お一人は「社会的共通資本」という概念を提唱・実践され、「心の経済学者」と呼ばれている米子ご出身の宇沢弘文先生、もうお一人は「慈しみの心」を根底に据えられ、東洋思想から世界の比較思想の研究分野を開拓された松江市名誉市民の中村元先生で、大根島に記念館があります。両先生は、文化勲章も受賞された偉大な学者であり、世界の平和を希求された実践者ですが、お二人とも実際に山陰に在住された期間は短いにもかかわらず、山陰への深い想いを生涯持ち続けられました。宇沢先生は著書の中で、ご自身の経済学の広がりや深まりは、優れた文化と豊かな人間性をはぐくんできた山陰に生を受けたことと無縁ではない、と述べられています。皆さんの専門知識を、社会、世界の課題解決に活かすための俯瞰的な考え方の参考に、是非山陰を深く愛されたお二人の著作を読まれることをお奨めします。

島根大学は、古代出雲をはじめ悠久なる歴史や、今年の秋の NHK の朝のドラマ「ばけば

け」で小泉八雲とセツ夫婦が取り上げられるように情緒あふれる文化と、夕日百選の宍道湖をはじめ豊かな自然が調和した島根の地にあり、医学部を含む7学部、4研究科の文理のバランスの取れた構成を持ち、島根県における文化と知の創造の中核として、地域の特色や課題に基づき先導的な人材育成、研究や診療、地域貢献に取り組んでいます。

近年その柱として、先端金属素材をはじめ材料科学分野の研究、人材育成を重点的に強化し、「もの創り」・材料科学領域で世界に突出した教育・研究機関となることを目指しています。一方、それをバランスの取れた持続可能な社会と Well-being の実現に結び付けるため、「もの創り」に加えて、地域ならびに関連する世界の歴史と文化、そこに根差した心と身体のケア、食を支える循環型農林水産業など、高水準な研究成果を基盤とした教育による高度人材の育成・輩出と産学官連携活動を進めています。それにより、今後地域産業の振興と持続可能な地域社会の確立に貢献し、さらにその成果を先導的モデルとして国内外に発信してまいります。

島根大学を卒業・修了される皆さんには、これからも島根大学、そして島根県に関心を持ち続け、様々な形で関わって頂ければ幸いです。島根大学は各学部同窓会と共に、皆さんとの「ご縁」と「絆」を末永く大切にしていまいります。また、ご自身のさらなる成長と持続可能な社会と Well-being の実現への貢献に向けて、生涯にわたって主体的に学び、前向きに人生を歩まれる皆さんを、島根大学はリカレント教育など、様々な機会を設けて支援してまいります。

ご卒業、修了される皆さんの新たな門出と輝かしい前途を祝し、また、皆さんのこれからのご健勝とご活躍を心からお祈りすると共に、これまで皆さんの成長を大きな期待を持って支え見守って下さったご家族、関係者の方々へ改めてお祝い申し上げ、式辞と致します。

令和7年3月19日

国立大学法人 島根大学

学長 大谷 浩